



ギリシアRGCCがん遺伝子検査ラボ ニュースレター

【腹膜癌症を伴った大腸がんの症例でのCTCsの役割と外科的処置への適応】

Surgery. 2016 Mar

Prognostic factor analysis of circulating tumor cells in peripheral blood of patients with peritoneal carcinomatosis of colon cancer origin treated with cytoreductive surgery plus an intraoperative hyperthermic intraperitoneal chemotherapy procedure (CRS + HIPEC).

(腹腔内温熱化学療法を伴った腫瘍縮小手術(CRS+HIPEC)を処置した大腸癌由来の腹膜癌症患者の末梢血中の循環腫瘍細胞による予後因子分析)

Melero JT, Ortega FG, Gonzalez AM, Carmona-Saez P, Garcia Puche JL, Sugarbaker PH, Delgado M, Lorente JA, Serrano MJ.

論文要旨

目的:

腹腔内温熱化学療法(HIPEC)を伴った完全腫瘍縮小手術(CRS)によって、大腸癌由来の腹膜癌症患者の全生存率が改善されたことによって、治療展望に変化が生じた。しかしながら、この活動的な局所的手続きの主な限界に、腹腔外と遠隔拡散がある。この研究の目的は、CRS+HIPECを経験した大腸癌由来の腹膜癌症の患者で、循環癌幹細胞(CTCs)の予後の重要性を確立することである。

患者と手法:

CRS+HIPECによる治癒的治療が可能であると思われる大腸癌由来の腹膜癌症と診断された14名の患者が、この研究に参加した。CTCsが、マルチサイトカイン特異的抗体を使用した免疫磁気的テクニックによって末梢血から分離されて、免疫細胞化学的手法で検出された。CTCsのEGFRの表現型の特徴が、免疫蛍光分析によって分析された。

結果:

ベースラインでは、50%の患者がCTCs陽性であり、末梢血10mL中CTCsは平均で5.5個であった。手術後は、28.57%の患者でCTCsが現れ、末梢血10mL中CTCsは平均で6.75個であった。ベースライン

で、CTC陰性、上皮細胞増殖因子受容体陽性と、腸閉塞の症状がある患者との間に正の相関が見出された(21.4%)。付け加えると、CTCsの存在によって、遠隔播種された患者が識別され、また、CTCsの存在は、無増悪生存とも有意に相関した(P=0.0024)。

結論:

CTCsの検出と特徴付けは、大腸癌由来の腹膜癌症の患者での、良好な予後予測マーカーになり得る。これらの分析は、CRS+HIPEC治療が奏功する患者の亜集団を識別する、新たなツールとして使用することが出来る。

各位

R.G.C.C. 社ニュースレターのアブストラクトの訳を配信致しました。
原文をご希望の際はお申し付けください。

会員向けの無料配信がございます。

<https://www.rgcc-group.com/index.php?page=newsletter>

にてお名前とEmailアドレスを入力の上、ぜひご登録をお願い致します。

ここに登録頂きますと、以下の情報が配信されます。

- ・ R.G.C.C.社ラボとコンタクトを持つ世界中の医師からの質問とそれへの返答内容。
- ・ 世界中のがんの専門医から寄せられる論文、治療の手法、意見、アイデア、CTCにかかわる世界の学会情報などの共有。
- ・ R.G.C.C.社ラボにおけるCTC、CSC、天然成分由来の抗がん治療製剤開発などにかかわる最新情報の配信。
- ・ CTC、CSCに基づき治療された患者群のフォローアップ統計の推進(これは再検査の際に提出される患者フォローアップシートへの記入がもととなりますので、ぜひご協力のほどお願い申し上げます)。

以上ですがぜひ、このサークルを広め役に立つ情報の共有を推進したくご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

株式会社デトックス